



円山川

# コウノトリも共生する河川環境の再生

多様な自然と共生する川づくりを行います。

## ● 背景 ●

流域の開発等により良好な生物の生息・生育環境が失われつつあります。

平成17年に試験放鳥が予定されているコウノトリの野生復帰に向け、国土交通省、兵庫県、関係市町から構成される「コウノトリ野生復帰推進協議会」が野生復帰推進計画を策定しました。本計画に基づき、自然と共生する河川の整備を推進します。



湿地再生の状況



## ● 事業内容 ●

エコロジカルネットワークの保全・再生を実施します。

かつての円山川周辺は、自然環境豊かな河川や水路を介して豊岡盆地の水田を中心とした湿地環境や山裾等との連続性を保つことで生物の生育生息環境のネットワークを形成していたと考えられます。円山川の自然再生はこのような環境を保

全・再生することを目標としてエコロジカルネットワーク<sup>\*1</sup>を構成するため、ビオトープ<sup>\*2</sup>の試験施工や河道内湿地の生物モニタリングを行い、それらをフィードバックしながら順応的に事業を実施します。

## ● 事業効果 ●

河川における生物の良好な生息・生育環境の保全・復元を実現します。

コウノトリを生物指標、食物連鎖の頂点として、多様な生物の生息・生育環境が育まれます。また、自然に生息するコウノトリを地域のシンボルとしてさまざまな地域振興にも資することとなります。



1960年代の円山川支川出石川の風景

### 用語解説

\*1 エコロジカルネットワークとは、生物の多様性の確保や生態系の保全・回復を目標として、生物生息空間である水と緑(自然環境)のエリアを量的・質的に確保するとともに、それぞれの空間相互を生物の移動を容易にする水と緑の回廊(生態的回廊)でつなげ、地域レベル、広域レベルのネットワークを形成することをいいます。

\*2 ビオトープとは、「特定の生物群像が存在できるような、特定の環境条件を備えた均質的なある限られた地域」と定義されています。一般的には、現存する自然の保全(保全型ビオトープ)と、失われた自然(生態系)を本来の場所に人為的に復元するビオトープ(復元型ビオトープ)の2つがあります。